



航空管制官



<空の交通整理でニアミスを防止>

世界中の空には常にたくさんの航空機が飛んでいます。安全のため、航空機は決められた飛行ルートを一一定の間隔を保って飛行することになっています。そのための交通整理をするのが航空管制官です。

航空機が離陸する際には、管制塔から管制官が滑走路に誘導してパイロットに離陸許可を出し、他の地上の航空機は滑走路前の安全な位置で、着陸してくる航空機は上空で待機させます。

離陸した航空機の管制はレーダー室の管制官に引き継がれ、付近を飛行している航空機をレーダーで監視しながら飛行ルートに誘導します。その後管制は、日本の空の全域を監視している航空交通管制部へ引き継がれます。管制はニアミスが発生しないよう常に緊張を強いられる重要な仕事です。

また、同じ空域の情報を共有するため、航空機と管制官とのやりとりは世界共通、原則英語で行うこととされています。

航空管制官は国家公務員です。航空管制官採用試験により採用されたら、航空保安大学校で研修を行い、全国の空港や航空交通管制部などで訓練を積み、技能試験に合格して、はじめて正式に航空管制官になることができます。

ディスペッチャー（運行管理者）



<地上のもう一人の機長>

航空機を到着地まで安全に定時運航していくためには、天候などの情報をもとに作成した最も安全で効率的なフライトプラン（飛行計画）が必要です。

このようなフライトプランを作成して機長と検討したり、飛行中の機長と交信して天候や航空機の状態をチェックしたりしながら、航空機を安全な航路に誘導するのがディスペッチャーの仕事です。

特に、天候の急変やエンジンの不具合などにより、当初のフライトプランを変更しなければならなくなった時には、航空機の残存燃料、航路の気象状態、到着地の天候、風速、風向き、落雷の発生状況、視界など、あらゆる情報を冷静に判断して最も安全な航路、滑走路に航空機を誘導しなければなりません。

このような役回りから、ディスペッチャーは「地上のもう一人の機長」とも言われています。

ディスペッチャーは、航空会社に採用された人の中から適性を判断してディスペッチャー補助者となって経験を積み、ディスペッチャー試験を受けます。合格して資格を取得した後も実務経験を積み、社内審査を通して初めてディスペッチャーとなることができます。